



2008年「慶應義塾ユースオーケストラ」という名称で、慶應義塾創立150年を記念する特別演奏会のために慶應義塾の高校生・大学生を中心として結成されたオーケストラ。

2014年には、幅広い年齢層や出身のメンバーが集い、より広く門戸をひろげて文化活動に貢献する存在でありつづけることを願い、団体名称を「東京ユヴェントス・フィルハーモニー」に変更し、より一層精力的な活動を続けている。総勢約150名による編成。

フルーティストの小山裕幾氏をソリストに迎えた創立記念演奏会は成功を収め、その後も、イェルク・デームス氏をソリストに迎えた第2回演奏会や、ジャン・シベリウス作品の日本初演を行なった第3回演奏会、舘野泉氏をソリストに迎え2曲の協奏曲を演奏した第4回演奏会など、毎回独自の演奏会を企画し、数多くの世界初演・日本初演を手がけており、各方面から好評を博している。2018年には創立10周年を記念し、コンサートミストレスに青木尚佳氏を迎えてマラー：交響曲第8番「千人の交響曲」を演奏。その模様を収録したCDは、海外のレビューサイト「OPERA TODAY」においても絶賛された。

指揮

坂入 健司郎
(音楽監督)



©Taira Tairdate

すみだトリフォニーホール



詳しくは会場アクセス情報を参照ください <https://www.triphony.com/access/>

慶應義塾大学経済学部卒業。指揮を井上道義、小林研一郎、フェドセーエフなどから学ぶ。2008年より東京ユヴェントス・フィルハーモニーを結成。15年、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンへ出演。MOSTLY CLASSIC誌「注目の気鋭指揮者」にも推挙された。16年、川崎室内管弦楽団の音楽監督に就任。20年、日本コロムビアの新レーベルOpus Oneよりシェーンベルク「月に憑かれたピエロ」をリリース。読響、日本フィル、新日本フィル、東京シティ・フィル、神奈川フィル、仙台フィル、名古屋フィル、愛知室内、大阪フィル、京都市響などと共演。大阪響とのブラームス全交響曲演奏会は注目を集めている。